

授業科目名・形態	公衆衛生看護学実習Ⅰ 実習	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	藤田 碧 他	実務経験の有無	有	開講期	4年前期・後期

【授業の主題】

地域で暮らす個人の住まい・生活の場に継続して訪問をすることで、個人及び家族のもつ健康課題とその背景、家族関係、社会的立場や役割を含めて支援対象を理解する。そのうえで個人・家族の健康課題への対処能力の発揮・向上を目指した支援や、社会資源を活用しながら健康を保ちQOLの向上を目指す支援の実践を理解する。また対象者の特性に応じた支援について基本的知識・技術を習得できる。また個別援助を通じて、地域でのケアシステムの構築について考察できる。

【到達目標】

1. 個人・家族の健康課題を把握する一連の過程（情報収集・分析・健康課題の抽出など）を理解できる。
2. 個人・家族の健康課題の背景や地域の特性を掴み、対象となる個人・家族のニーズや願い、対処能力を踏まえた支援計画の立案を理解できる。
3. 個人・家族の健康課題の解決や対処能力の向上を目指した保健師の支援活動の実際と、支援活動の評価を理解できる。
4. 住まいと周辺環境について生活者の視点で観察し、個人・家族にとっての困難や強みをアセスメントできる。
5. 個別援助を通して、地域における健康支援の方法や互助・共助を含めた支援システムの構築について考察できる。

【授業計画・内容】

1. 実習概要
実習オリエンテーションで提示する（詳細は実習要項を参照）
2. 実習施設
秋田県内の市町村（4か所）

【授業実施方法】

臨地実習

【授業準備】

「公衆衛生看護技術論」で学んだ「家庭訪問」を振り返り、家庭訪問計画を立案する。
家庭訪問前に乳幼児の身体計測や簡易発達検査、成人の血圧・腹囲測定などの技術を復習する。

【主な関連する科目】

「公衆衛生看護技術論」「母子保健活動論」「成人保健活動論」「高齢者保健活動論」などの公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

公衆衛生学、公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ、公衆衛生看護活動展開論Ⅱ、公衆衛生看護活動展開論Ⅲ、健康教育論、成人保健活動論、高齢者保健活動論、母子保健活動論、健康課題別活動論Ⅰ、健康課題別活動論Ⅱ、公衆衛生看護技術論、家族看護論などで使用した教科書および配布資料、実習施設について収集した資料などを活用する。

【参考文献】

適宜紹介

【成績評価方法】

事前学習課題（10%）、実習内容・実習記録・実習指導者の評価（90%）を総合して評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

行政保健師として、乳児から高齢者まであらゆる健康段階にある方の訪問をした経験を活かし、今まで学んだことを活かして体験的・実践的な学びとなるように実習進行をしていきます。

【学生へのメッセージ】

これまでに学んできた知識や技術を活かして、地域で生活している人々の健康課題解決への支援活動を実践する実習になります。各自が実習目標を持って、積極的な姿勢で実習に取り組んでいきましょう。